

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2020年12月21日

事業所名:オリオンあなせ

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	スペースは十分に確保できている。	「はい」27名。 「わからない」4名。	法令を遵守したスペースを確保できている。 レイアウト等さらに工夫・改元を検討する。
	2	職員の適切な配置	法令に基づき配置している。	「はい」19名。 「いいえ」1名。 「わからない」11名。	現状で対応していく。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	玄関に段差がある。スケジュール提示など実施している。	「はい」26名。 「わからない」4名。	利用児童に応じ適宜環境を整える。(ハード面の改修は困難であるが人的配慮で対応する)
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日、朝・夕に清掃・消毒を行っている。時間を決めて換気を実施している。	「はい」26名。 「わからない」5名。	冷暖房など温度設定・管理を適切に行う。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	業務改善、見直しを行っているが効率よく改善につながっていないこともある。	業務を見直し、さらに充実するよう努める。 今後検討を行っていく。 web研修を導入。	
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在実施していない。		
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	外部講師研修(法人研修)内部研修の実施。		
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	サービス等利用計画を基に計画書を作成、相談支援事業所と連携をして情報を共有している。	・相談員を通じて指導員にも伝わっており適切にして頂いていると思う。 ・連絡帳が簡略化されて利用日の様子が分からないことがあるためしっかり伝えてほしい。 ・送迎時に様子を聞いたり、サービス提供記録などでわかるが、実際に活動の様子などを見たいと思う。	相談支援事業所との連携、情報を共有する。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	日々のミーティングで意見交換をしている。必要に応じて活動(個別・集団)を組み合わせる。		
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	児童・保護者のニーズに合わせ課題解決に対し具体的なプログラムを立てる。		

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供 （続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援会議と事業所内での会議で見直しを実施する。		継続して実施していく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	職員全体で活動内容を考えている。		プログラムを通して課題・成長が分かるようにする。 (一つのプログラムを少しずつ難易度を上げてみる) 飽きないプログラムを考え実行する。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日、休日ともにプログラム内容を考え実施している。		今後も対応できるようにする。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	曜日ごとにプログラム内容を変更している。		プログラムに多様性を持たせ利用者が楽しめる工夫を行う。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	朝礼時に当日利用児童の注意点、その日の流れ、役割を確認している。		継続して実施していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	各児童の記録を残す。特記は口頭でも他職員に伝え情報の共有を行っている。		継続して実施していく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の記録はデータベースで入力して記録者以外も確認できるようにしている。記録内容を振り返り、課題や次の支援につなげられるようしている。		継続して実施していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に一度、または必要に応じて評価を実施する。		継続して実施していく。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	積極的に参加をしている。児発管とケース担当者も同席するようにしている。		各関係機関と連携を今後も行う。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	相談支援事業所からの連絡、相談から利用につなげている。学校等直接やり取りは出来ていない。		地域・近隣との交流の場があればと思う。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	低年齢児童が多く、福祉サービスへの情報提供はできていない。		同法人の福祉サービスへ繋げたいという希望する保護者もいるため、継続利用できるように支援を行い、学校卒業後のサービスにつなげられるようにする。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	必要に応じて他機関との情報共有を行っている。専門機関での研修には参加できていない。		機会があれば研修参加を検討する。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	他施設との交流は出来ていない。		今のところ予定はない。近くに保育所、老人ホームがあるため交流の機会があれば実施したい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現在地域住民との交流の場はない。	「いいえ」8名。 「わからない」18名。 ・交流はしていない。	地域交流の場があれば参加をして、障害等への理解を求める機会にしたい。
	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	見学、契約時に丁寧に伝えるようにしている。	「はい」28名。 「いいえ」2名。	継続して実施していく。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画書を提示しながら説明、口頭でも伝えサインをもらっている。	「はい」21名。 「どちらともいえない」6名。 「わからない」1名。	内容等、問い合わせがあれば丁寧に対応を行う。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングは実施していない。	「はい」10名。 「どちらともいえない」3名。 「いいえ」3名。 「わからない」11名。	現在実施の予定はないが、相談などがあれば丁寧に対応していく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時に聞き取りをしたり、連絡帳・ラインを活用している。		保護者との連絡を密に行っていく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	必要に応じて行っている。		ご家族が抱える悩みなどを職員が共通理解で支援につなげていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現在、実施していない。	「どちらともいえない」3名。 「いいえ」13名。 「どちらともいえない」10名。	保護者会は検討したい。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情記録をとり、事業所・法人で周知、解決するようにしている。	「はい」20名。 「わからない」8名。	保護者からの意見を支援に反映させ、よりよい事業所となるよう努める。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	必要時応じて口頭だけではなく、書面に書いて情報を提供している。	「はい」22名。 「どちらともいえない」3名。 「わからない」3名 連絡帳やラインは誰とやり取りをしているか分からないので必ず名前を記入してほしい。・気になることは電話、ラインをしています。	継続して実施していく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	法人で年2回広報誌を発行している。活動中の様子を写真や動画で送っている。(不定期)	「はい」23名。 「どちらともいえない」1名。 「わからない」5名。	情報発信の方法や内容を検討する。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報に関する物は持ち出し厳禁の徹底・配慮をしている。	「はい」25名。 「わからない」5名。	継続して実施していく。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルは作成しているが、保護者への周知は出来ていない。	「はい」15名。 「どちらともいえない」1名。 「いいえ」2名。 「わからない」11名	特に感染症の時期など事業所での取り組みを保護者に周知、掲示などを行う。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的に避難訓練は実施しているが、火災訓練のみで自然災害対応訓練は出来ていない。	「はい」17名。 「わからない」4名。	時間、頻度の関係で参加できる人数が限られてしまう。普段の活動の中に取り入れられるか検討をする。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	職員研修、施設外研修への参加をしている。		継続して実施していく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体後続を行う場面がないため記載はなし。		やむを得ず拘束を行う場合は必ず日時、内容、拘束時間を記録・書面に残す。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	事前に保護者にアレルギーの有無、症状発生時の対応を聞き職員に周知をしている。		継続して実施していく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	報告書の作成、情報を共有している。		継続して実施していく。